

シマダヤグループ 環境会計

環境活動をより効率的に推進するため、またシマダヤグループの環境活動を広くご理解いただくために、シマダヤグループでは、環境会計を導入しています。

環境会計の集計について

【集計範囲】 シマダヤグループ(シマダヤ及びシマダヤグループ3社11工場※)

【対象期間】 会計年度に準拠(2019年度:2019年4月～2020年3月)

シマダヤグループ工場3社(11工場)

シマダヤ関東(株) 東京工場、松戸工場、群馬工場、前橋工場、埼玉工場

シマダヤ西日本(株) 滋賀工場、兵庫工場、岐阜工場

シマダヤ東北(株) 古川工場、郡山工場、仙台工場

環境保全コスト

…事業活動における環境保全のために投入した投資や費用

(単位:%)

分類	2019年度の主な取組内容	前年比	
		投資額※1	費用額※2
1 事業エリア(①-③)内コスト		106.8%	87.9%
内訳	①公害防止コスト	105.0%	122.0%
	②地球環境保全コスト	111.0%	80.6%
	③資源循環コスト	90.9%	76.4%
2 上・下流コスト※3	製品・資材のリサイクル、再商品化等	-	-
3 管理活動コスト※4	環境取組、環境教育、環境情報の公開など	331.6%	93.0%
4 社会活動コスト※5	地域貢献に関わる活動など	-	87.9%
合計		107.3%	88.1%

(※1)投資額……対象期間における環境保全を目的とした支出額で、その効果が数期にわたって持続し、その期間に費用化されていく費用

(※2)費用額……対象期間における環境保全を目的とした財・サービスによって発生する費用

(※3)上・下流コスト……主たる事業活動に伴って、その上流または下流で生じる環境負荷を抑制するための環境保全費用

(※4)管理活動コスト……社内における環境保全に関するシステムの運営、教育、情報の公開に伴う費用

(※5)社会活動コスト……外部とかかわりをもって実施した、環境保全に関する社会・環境活動に伴う費用

(※6)ボイラー設備……燃料を燃焼させて得た熱を水に伝え、水蒸気や温水に変える熱交換装置をもった熱源機器

■2019年度コスト別比率

◎公害防止コスト……………23.6%

・事業活動が要因となって生じる有害な影響(人の健康、生活環境に生じる被害など)を防止するためのコスト

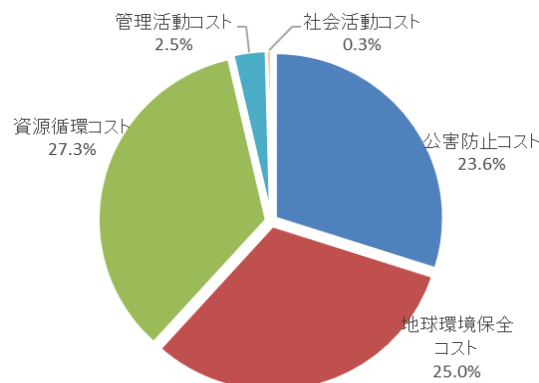
◎地球環境保全コスト……………25.0%

・人の活動が要因となって、地球全体またはその広範囲にわたって環境に及ぼす影響(地球温暖化、オゾン層破壊など)を抑制するためのコスト

◎資源循環コスト……………27.3%

・環境や資源を保全し、現在と将来において繰り返し利用できる資源の循環に取り組むためのコスト

(例:廃棄物の発生抑制・適正な処分、リデュース・リユース・リサイクルなど)



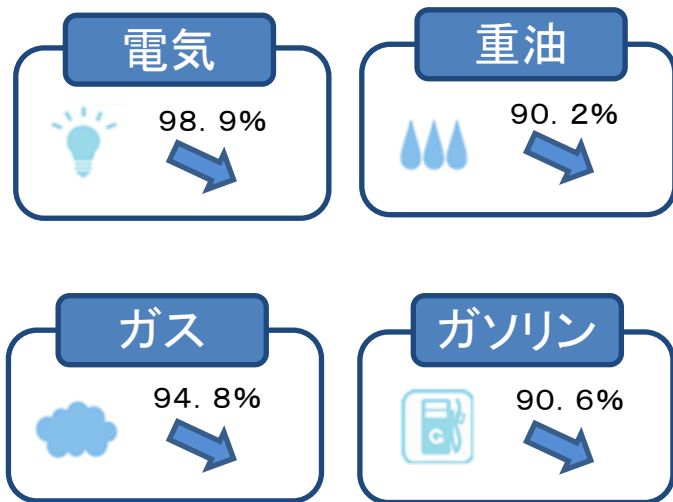
・投資額

生産工場で、主に公害防止(井戸水の水質向上)、地球環境保全(蒸し機更新、廃熱回収設備設置への投資を行ったことにより前年より7.3%の増加となりました。

・費用額

廃棄物処理費用減少、オーバーホール回数減少などにより、前年より11.9%の減少となりました。

■資源使用量の前年比



・電気

生産性の向上などにより、前年より1.1%の削減となりました。

・重油、ガス

熱交換器や廃熱回収設備導入などにより、重油は前年より9.8%の削減、ガスは前年より5.2%の削減となりました。

環境保全対策に伴う経済効果

…事業活動における環境保全により得られた経済的な効果

→ 収益…対象期間において、環境保全により得られた金額(不要物やリサイクルによる有価物の売却益など)

→ 費用節減…対象期間において、環境保全により発生した電気・燃料、廃棄物の処理などの費用のうち節減した金額

(単位:千円)

効果の内容		2019年度
		売却額
収益	リサイクル可能な有価物による収益	1,096
効果の内容		2019年度
		節減額(前年差)
費用節減	①省エネルギーによる節減額(電気+燃料)	129,915
	②廃棄物処理費の節減額	40,597

・収益

本来廃棄物となるものに対し、リサイクルを推進し、上記の収益となりました。

・費用節減

①省エネルギーによる節減額(電気+燃料)は、生産の効率化や新規設備の導入による使用量の削減及び単価の下落により増加となりました。

②廃棄物処理費は、廃棄物排出量の削減及び、廃棄物の処理方法の変更による単価の下落により増加となりました。

以上